



イチゴの挿し苗育苗と間欠冷蔵による花芽分化促進

イチゴ産地の維持拡大には、優良苗の確保と確実な花芽分化に努めることが重要であるが、収量性と品質重視の育種のため、依然としてタンソ病罹病性の品種が主流であり、タンソ病が各地で重大な被害を及ぼしている。また、花芽分化期の早い品種の育成と普及が進んでいるが、地球温暖化等により開花・収穫期が遅れ、クリスマス需要期のイチゴ供給が不足する傾向にある。イチゴの収量・収益の安定、向上のためには簡便で低コストな無病苗の増殖技術と花芽分化促進技術の開発が急がれている。

このため、省力的なイチゴの挿し苗育苗技術と農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で開発が進められている「間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術」に関する研究内容を公開するとともに、産地発展のための課題等について、議論を展開する。

参加費無料

主催：特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会／農林水産省
後援：社団法人農林水産・食品産業技術振興協会／JA香川県

2012年7月4日(水)13:30～17:00
JA香川県 中央地区営農センター 3F 大ホール
(高松市下田井町367-1)

受付	12:50～13:30
開会、あいさつ	13:30
1:「空中採苗による挿し苗育苗技術」	13:35～14:20
岡山大学農学部 教授 吉田 裕一氏	
2:「間欠冷蔵処理による‘さぬき姫’‘女峰’の花芽分化促進」	14:20～14:45
香川県農業試験場 主席研究員 松崎 朝浩氏	
3:「間欠冷蔵処理時の冷蔵温度が‘さちのか’の開花に及ぼす影響」	14:55～15:20
近畿中国四国農業研究センター 主任研究員 山崎 敬亮氏	
4:「間欠冷蔵処理における品種適応性評価」	15:20～15:45
奈良県農業総合センター 総括研究員 西本 登志氏	
5:「間欠冷蔵処理の処理時期と処理回数が‘女峰’の開花に及ぼす影響」	15:45～16:10
徳島県認定就農者 (H24.3岡山大学大学院修了) 尾崎 英治氏	
質疑・意見交換	16:10～16:30
閉会	
個別相談(競争的研究資金・共同研究など)	16:35～17:00

<お問合せ・申込み先>

特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会(略称:NPO法人中四国アグリテック)
岡山市北区津島中1-1-1 岡山大学農学部3号館 102号室 <http://www2.ocn.ne.jp/~agritech/>
TEL 086-237-3340 FAX 086-201-0551 E-mail agri@key.ocn.ne.jp
お名前、ご所属、Tel & fax番号をFAXしていただくか、同内容をメールでお送りください。

* 申込締切:2012年6月25日